

文化財 だより ふるさと再発見

③ 曾木の宝篋印塔

曾木は、昔の中馬街道が通っていた山間部にあります。

曾木村は、関ヶ原の戦いの十五年後、元和（一六一五年）以降再興された旗本明智遠山氏領地として、近隣の村々では領主が代わるが多いのに、明治まで一度も代わらなかった特異な地域でした。

山並みはるかな信州の飯田と、尾張の名古屋を結ぶ中馬街道周辺には、古い歴史を刻む数多くの石造物が、今なお地域の宝物として見守られ、大切に残されています。

今回紹介します「曾木の宝篋印塔」は、曾木町中切、伊藤美碩氏宅前の古い道脇にあります。

材質は砂岩で、高さは約一・一mです。

塔の先端から台座まで、それぞれの部分の形状・特徴から見て、室町時代の後期（四五〇～五〇〇年前）に造られ



た関西様式のものです。

宝篋印塔や五輪塔は、墓塔であり、供養のための塔婆の一形式でありました。

同町内の五輪塔（君ヶ塔）

の一部は、鎌倉様式をふまえているといわれ、当地の歴史の古さをうかがい知ることができます。意外なところに、郷土の歴史を発見する面白さがあるものです。

伊藤家では、宝篋印塔を祖先から「五りん様」と呼んで大切にしよう言い伝えられ、献花と掃除が今日もなお、続けられています。

教育夢発信

土岐市立肥田中学校

「少人数指導を生かした授業」

肥田中学校では、昨年度から数学の授業に少人数指導を取り入れています。

【昨年度】

●クラスを二つに分けた授業

【今年度】

●クラスを二つに分けた授業

●学習内容の理解度で分けた習熟度別の授業

●二人の教師が一つの学級に入って授業を行うチームティーチングの授業

この三つの授業パターンを、学習内容に合わせて行っています。



このような工夫を取り入れることで、生徒一人ひとりとじっくり考え合う時間が増えました。

生徒にとって、学校生活の大半の時間は「授業」です。「前より少し分かるようになった!」「あつ、そうか!」「なるほど!」そんな驚きや喜びとともに「なんでだろう?」「どうして?」という数学の面白さも感じてほしいと思っています。少人数指導を生かした数学の授業を行うことで

「筋道を立てて考える力」

「つながりを持って考える力」

をより身に付けられるよう、日々生徒と向き合い、考えていきたいと思っています。